

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100108		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家紫野 (ユニット1)		
所在地	京都市北区紫野南舟岡町35-2		
自己評価作成日	令和元年10月21日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JiryoNoCd=2690100108-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の「笑顔・言葉・思い」を引き出せるように職員1人ひとりが寄り添い、共に楽しみ、入居者様に毎日を安全に穏やかな気持ちで過ごして頂くことを第一に考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は「ともに笑顔、ともに健康で」という事業所独自の理念を昨年作成し、利用者が笑顔で自由に好きな場所で好きなことが出来る様に職員は笑顔で関わり、レクリエーションの充実や共用空間の環境を整える等の取り組みを行っています。一人ひとりの利用者により寄り添いゆったり過ごせるよう支援し日々の生活が家族に伝わる様に毎月の便りに写真を添えて送付しています。また、定期的なボランティアの来訪や伝統的な祭りでもある「やすい祭り」の際には事業所を休憩場所として提供することで利用者も花傘の下に入り子ども達のお囃子を聞く等地域の方と交流を図り楽しんでます。また、出来るだけ外出の機会を作り初詣や花見、紅葉狩りに出かける他、少人数での散歩をはじめ駐車場で日光浴など外に出る機会も大切に支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑顔、ともに健康で」という事業所理念に基づき入居者様に楽しく健康に過ごして頂けるよう、職員1人ひとり「明るく、元気に、楽しく、遅しく」を心がけて取り組んでいます。	事業所理念は利用者や職員が近い関係にありお互いに笑顔で健康に過ごすことが出来る様に昨年作成しています。職員の入職時には目標とする事業所のあり方や理念に込められた思いについて説明をしています。日々の支援の中でともに笑顔で関わられるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なう行事に入居者様の体調も考え、できるだけ参加し、受け入れて頂けるよう努めています。	自治会に入会し地域で行われる行事や催し物の情報を得ています。地域の「やすらい祭り」の休憩所として事業所を提供し子ども達のお囃子を聞き大きな花傘の下に入る等にも楽しんでます。ギターの弾き語りや歌、お芝居などのボランティアの来訪もあります。今後近隣小中学校に事業所の紹介と挨拶に出かけ交流に繋がるように取り組む予定としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し参加して頂ける機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は議題に沿って報告し、意見や助言を頂き、サービスの向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1回利用者や家族、地域包括支援センター職員等が参加して開催しています。利用者の状況や経過対策を含めた事故報告、職員研修、行事等の状況や取り組みを写真も含めた資料を作成して報告し、意見交換を行っています。地域の情報や利用者の身体状況を評価してもらえる運動療法士の紹介もあり来訪に繋がっています。	会議に地域の方に参加してもらえるよう民生委員や近隣の方にも案内されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には連絡をとっていますが積極的には行なっていないのが現状です。	運営推進会議の議事録や事故報告書、必要書類の提出等に出向いています。運営上の具体的な問題点や制度上の分からない事、困難事例についても担当者に電話や直接相談することもあります。行政からの注意喚起や研修案内もファックスで届いており、職員に掲示し希望する研修に参加できるように調整を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議の日に合わせ2ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開催しています。出入り口は安全確保のため施錠しておりますが、希望時には開錠しユニットの外に出て頂いています。	身体拘束について法人本部で年に2回研修があり、参加できない職員は伝達研修やDVD等の資料で学んでいます。会議の中でも具体的な内容や事例を挙げて説明し身体拘束に繋がらない取り組みを行っています。不適切な言動が見られた場合には個別に注意や指導をしています。フロアの入り口は施錠していますが外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添い外気浴や散歩に出る等の支援をしています。	

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社研修やカンファレンスで事例を挙げ虐待の理解を深めるとともに防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社研修に参加し、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明に十分な時間をとり、理解・納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の際に意見要望を把握し課題として共有しています。また意見箱を設置しご意見・ご要望等を頂ける体制をとっています。	利用者との日々の会話から意見や要望を聞くように心掛け、行きたい場所や食べたい物などを聞きサービスに反映しています。家族には毎月の便りで利用者の様子を伝えたり面会時や運営推進会議の中で直接意見を聞いています。職員の言葉遣いについて指摘を受け、会議で話し合い指導し改善に繋げています。個別の意見でも他の利用者への対応を見直すことも心掛け、出来る事は速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り・会議・連絡ノートで意見交換をし話し合い反映させている。	職員の意見は日々の業務の中で意見や提案を聞き企画書を立案してもらい会議の中で話し合い検討しています。決定した内容については職員主導で進め、日々のレクリエーションや業務内容の変更など実践に繋げています。又年に2回行われる定期面談のほか、悩みを抱えている職員には随時面談を行い仕事をしやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度・技能段位認定制度で職員の努力や実績を評価し、給与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時は本社で5日間の研修を受け、その後も定期的にフォローアップの研修(1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月・1年・2年)を受けています。研修報告書も記入し振り返りの機会になっています。		

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社の他事業所との交流はありますが、他法人様との交流はなかなか出来ていないのが現状です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を共有し、情報のみに頼らず、ご本人の話を個別に傾聴し、安心して頂けるようなコミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況や不安な事を確認・共有し出来るだけ対応出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今のご本人にとって必要なサービスをご本人・ご家族と話し合い、最適なサービスを受ける事が出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや共同作業を通して馴染みの関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、居室担当者がご本人のご様子を写真付きの書面にてご家族に報告しています。ご家族の思いを聞きながら、関係を維持していけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達やお知り合いからの電話で談話されたり、訪問して頂いている。	家族以外に友人やサークル仲間など馴染みの人の来訪もあり、リビングや居室等過ごしやすい所を選んでもらい、お茶を出したり椅子を準備してゆっくりと過ごせるよう支援しています。また、回想法を用いて馴染みの場所を聞きドライブや外出時に訪れるようにしています。家族と法事や自宅に出かける方もおり準備等、スムーズに外出できるよう支援しています。年賀状の準備や宛名書き、投函の支援を行い馴染みの関係が途切れない様に取り組んでいます。	

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係性を把握し、食事や外出の際のグループ分けに反映している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を伺うことが困難でも、表情・仕草等を観察し、出来るだけ本人主体になるよう検討しています。	入居前には自宅や病院、施設など生活している所に管理者やケアマネジャー、看護師が出向き、本人や家族の希望、日常生活状況等を聞き取っています。今まで関わっていた事業所等からも情報を得て所定のフェイスシートにまとめ思いの把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で利用者の表情や言動を下に、カンファレンス等で話し合いながら思いが把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に現在の状況、不安な事を把握し関係作り・改善に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・管理日誌・医療機関を通して、心身の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を把握し、カンファレンスや担当者会議を開催し介護計画に反映させている。	本人や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し、初回は1か月で見直しを行い、以降は利用者の状況に変化がなければ3か月毎に見直ししています。その際にはモニタリングや評価、再アセスメントを行い現状を確認し、本人や家族の参加を得てサービス担当者会議を開催しており、意見や思いを改めて聞き直しています。必要に応じ医師や看護師の意見を聞き計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・連絡ノートを利用し、見直しに活かしている。		

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携・福祉用具・訪問美容・訪問歯科等の対応・支援が出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、出来るだけ多くの選択肢を提供出来るように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人・ご家族に施設提携のクリニックの説明をしたうえで主治医を（かかりつけ医）を選択して頂いている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できる事を伝えており、現在は全利用者が協力医の往診を月2回受け、緊急時には24時間連絡が可能で場合によっては随時の往診を受けています。専門医への受診は家族が同行し書面や口頭で情報提供を行い結果は家族より報告を受けています。事業所看護師による健康管理が行われています。訪問歯科や訪問マッサージも希望に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時や状態の変化時は報告し、必要に応じて医療機関との連携や対応のアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者・ご家族との連携をとり、現状を把握し情報交換等に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期・重度化指針についての説明を行なっている。	入居時に重度化した場合や終末期の指針に沿って説明を行い、利用者の状況に応じて家族に再度支援できる事や医療行為などの出来ないことを説明し、かかりつけ医から病状の説明を受け今後の方針を決めています。看護師と連携を取り、注意事項やアドバイスをもらい利用者の最期をどのように支援出来るかを職員間で考えながら、家族の思いを汲み取り可能な限り希望に添えるように看取り支援を経験したこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応はカンファレンスで周知し、実践出来るようにしています。マニュアルも作成し閲覧出来るようにしています。		

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、年2回の消防訓練を実施しています。	消防訓練は年に2回消防署の立会いの下昼夜を想定して通報や初期消火、非常口の確認及び水消火器を使った消火訓練を行い、事業所内の連携や伝達方法など確認し、消防署員より細やかな事も含めアドバイスを貰っています。備蓄は1週間分の準備があり懐中電灯やカセットコンロなどの備えもあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の今までの生活状況を把握し、それぞれの人格を尊重した声掛けや対応をしています。	接遇や尊厳、プライバシーや権利擁護に関する研修は法人主催で行っており、参加した職員による伝達研修や会議の中でも話し合いが行われています。特に言葉遣いについて基本は敬語で丁寧に対応するように説明しています。不適切な対応があった場合には他の職員が交代したり、管理者が指導を行っています。また職員が互いに注意を行える様にも取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を取り入れている。意思疎通が困難な方は日々の関わりやコミュニケーション・ご家族の協力を得て、出来る限り、思いを汲み取れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の性格・趣味嗜好・生活歴・ご家族様の情報・コミュニケーションなどから可能な限り要望に応え「その人らしい暮らし」が送れるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、外出や行事では「いつもと違う装い・服装」で身だしなみに配慮しています。お化粧品を持っておられる方には継続出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片づけを一緒に行ない役割分担が自然と出来ています。食事中は職員も一緒に着席し、適度に会話を楽しむように努めています。食事介助中も過度な声掛けは控えるように努めています。	食事は業者よりチルドの食材が届き温めて提供しています。季節の特別メニューや利用者の意見を聞き業者の食事を止めてお好み焼きや鍋料理、テイクアウトしたピザや寿司を提供する等の工夫をしており、利用者も盛り付けや下膳、食器洗い等出来る事に携わっています。ホットケーキやケーキなどの手作りおやつを提供も行い食事を楽しむ機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量・水分量を記録し把握しています。状態の変化時には食事形態の見直し、嗜好品も取り入れて必要量の確保に努めています。		

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯科衛生士からの指導に基づいた口腔ケアを行なっています。毎週の訪問歯科でも口腔ケア・必要に応じて治療を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々にあった時間で声掛けや誘導を行なっています。	トイレでの排泄を基本とし、排泄記録を用いて排泄パターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。職員間で話し合い排泄用品の種類や支援方法を検討し、職員間で情報を共有する事で自立に向かうように支援しています。排泄が自立している方もおり現状が維持できるように日々関わったり、夜間のみポータブルトイレを使用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便状況を把握していません。薬には頼らずに排便が出来るよう食事量・水分量確保と運動を行ない予防に努めています。便秘時は看護師に報告し指示のもと対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体介護が必要な方は職員の人数が揃っている時間帯に入浴されていますが、他の方は希望に合わせて入浴して頂けるよう支援しています。	入浴は週に2~3回日中の時間帯を基本に支援し個々の希望や習慣に合わせて出来るよう努めています。一人ずつ湯を入れ替え浴槽の掃除と消毒を行い、季節のゆず湯や入浴剤を使ったり、好みのシャンプーや石鹸を持って来ている方もおり、ゆっくりとコミュニケーションを図りながら入ってもらっています。脱衣室にはエアコンが設置され浴室との温度差にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間・就寝時間は特に決めておらず、なるべく個々の生活リズム・習慣に合わせています。夜間、不眠や浅眠の方は休息して頂くように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルで管理し、内服薬について把握出来るようにしています。不明点なども薬剤師・看護師に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の間で家事の役割分担が定着しています。外出も行事だけでなく天気の良い日には散歩に出掛けたり色々な面で気分転換になることを支援しています。		

グループホーム たのしい家紫野（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブの機会を作っている。ご家族と外出される方もいます。お声をかけて頂き、地域の行事にも参加しています。	天候と体調に合わせ2～3人の少人数で事業所近辺の散歩に出かけ道すがらお地藏さんに手を合わせるなどしています。また、少しの間でも駐車場に椅子を並べ日光浴や外気浴をするなど外気に触れる機会を作っています。初詣や桜の花見、紅葉狩り、祇園祭の見学等の外出行事を企画し出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設で管理しておりますが、買い物や外出で自由に使える機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は一部の方に限られますが行なえています。希望に沿って支援出来るよう努めていきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ・温度・臭いに配慮しています。幼稚になりすぎない、季節にあった装飾品で季節を感じ、居心地良く過ごせるように努めています。フローアの方針を「居心地の良い環境作り」と決めて取り組んでいます。	共用空間は利用者で作成した壁絵や職員が選んだ写真を「季節の窓」として飾り廊下で歩行訓練を行う際にも季節感を感じることが出来ます。毎日の清掃や換気を行い清潔に保つと共に、各所に空気清浄加湿器を設置し定期的に温湿度計を確認しながら温度や湿度の管理を行う他エアコンの風が直接利用者に当たらない様に布でカバーを作るなど、快適に過ごせるよう環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性に配慮したテーブルの配置をしたり、ソファを置いて、好きな場所で過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの家具や物を持って来て頂き、以前の環境に近づけるような居室作りをしています。行事の写真やレクで手作りした物も飾り、居心地の良い環境となるよう工夫しています。	入居時に本人が今まで使用していたものを持ってきてもらうよう伝え、椅子やテレビ、鏡台や大切な仏壇等持参した物を利用者の過ごしやすい居室となるよう配置しています。家族の写真、ぬいぐるみや趣味で使っていた腹話術の人形や南京玉すだれ等を飾っている方もいます。換気や清掃を出来る方は一緒に携わってもらい、明るく清潔感がある居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく表示したり、簡単に出し入れ出来て使えるように配慮しています。		